



*The Japanese
Society of
Toxicology*

**Vol. 46 No. 6
December 2021**

毒性学ニュース

Toxicology News

一般社団法人日本毒性学会

The Japanese Society of Toxicology

毒性学ニュース Contents

日本毒性学会からのお知らせ

白須泰彦先生 追悼文	101
役員選挙の公告	103
日本毒性学会教育委員会からのお知らせ（第6報）	104
第49回日本毒性学会学術年会のご案内（第3報）	106
医薬品毒性機序研究部会主催 第4回医薬品毒性機序研究会	110
2022年度日本毒性学会 特別賞候補者推薦要領	112
2022年度日本毒性学会 学会賞候補者推薦要領	113
2022年度日本毒性学会 奨励賞候補者推薦要領	114
2022年度日本毒性学会 佐藤哲男賞（国際貢献賞）候補者推薦要領	115
2022年度日本毒性学会 学会貢献賞候補者推薦要領	116
第48回日本毒性学会学術年会要旨集の販売について	117

毒性学ニュース索引（46巻）

一般社団法人日本毒性学会の定款および規程類について



故 白須泰彦 氏

故 白 須 先 生 略 歴

白須泰彦 (しらすやすひこ)
 生年月日：1930年12月17日
 出身地：新潟県佐渡市
 年 齢：90歳 (2021年2月死去)

略 歴

1954年3月：東京大学農学部獣医学科卒
 1959年3月：東京大学大学院博士課程修了 (農学博士)
 1959年4月：財団法人癌研究会癌研究所研究員
 1961年4月：特殊法人理化学研究所研究員
 1963年4月：米国国立癌研究所 (National Cancer Institute) 客員研究員
 1968年4月：特殊法人理化学研究所副主任研究員
 1970年4月：財団法人残留農薬研究所毒性部長
 1988年4月：財団法人残留農薬研究所理事
 1991年3月：財団法人残留農薬研究所理事退任

表 彰

1988年：科学技術庁長官賞 (研究功績者) 「農薬の遺伝毒性評価法に関する研究」

論 文

100報以上に及ぶ原著論文 (Peer reviewed journals)

著書

・毒性学概論 (朝倉書店) 1982年
 ・毒性試験講座：農薬・動物用医薬品 (地人書館) 1991年
 ・獣医毒性学 (養賢堂) 1997年

記：原田 孝則 (一般財団法人残留農薬研究所)

白須泰彦先生 追悼文

日本毒性学会の生みの親のひとりである名誉会員の白須泰彦先生が今年の2月12日にご家族に見守られながら眠るように安らかに90歳の人生を閉じられました。心からご冥福をお祈り申し上げます。

先生は東京大学農学部で獣医学を学ばれた後、理化学研究所在職中にNCIのJohn H. Weisburgerの下で発がんのメカニズムを研究し、1970年代に日本にエームス法を導入した日本毒性学の創始者のひとりです。

白須先生の英語はbilingual級で、見聞・人脈が広く、何時も世界を見つめていました。私が紹介していただいた毒性学者は、SOTのpresidentだけでもPerry J. Gehring (1980-81), Frederick W. Oehme, (1984-85), Roger O. McClellan, (1989-90), Curtis D. Klaassen (1990-91)などで、数えきれません。おかげで、McClellanさんがeditorをしているCritical Reviews in Toxicologyのeditorial advisory board memberや、A. Wallace HayesがeditorをしているFood and Chemical Toxicologyのassociate editorなどをさせていただきました。日本で農薬などの環境

汚染物質の毒性が問題になり、先生が1970年に残留農薬研究所を設立されたときに、英語名をIET (The Institute of Environmental Toxicology) とスマートなネーミングにしたのも先生の国際感覚の表れと思います。

先生は農薬などの安全性を明らかにするという実践的な毒性試験の現場におられながら、毒性のメカニズムを明らかにして科学的に人に外挿しようという強い理想をお持ちでした。それ故、日本毒性学会の黎明期に、先生が学会名を「毒作用研究会にしましょう」と北大の田邊恒義先生に提案したのだと思います。

私は残留農薬研究所で15年間先生の直属の部下として仕えました。先生は進取の精神が旺盛でいつも夢を見ていました。厳しいところもありましたが、竹を割ったような性格で、新しいことには心から興味を持って応援してくれました。私が提案した研究には決まって「お前が言うなら良いだろう」と言って15年間一度も口を挟まれたことがありませんでした。そして成功した時には自分のことのように喜んでく

れました。

後輩の育成にもとても熱心で、多くの優秀な研究者を育てられました。ほぼ毎年 SOT の学会に先生のお供をしましたが、先生はいつもすべてのポスターを見て回られました。学会のホテルで先生と酒を酌み交わしながら、発表の感想などをお話ししたことを懐かしく思い出します。また、学会中は、流暢な英語で様々な企業と仕事の交渉をされていました。技術的な説明役としてお供して、外人との交渉術を徹底的に教えられました。学会の後は毎回 EPA, NIEHS, CIIT などの公共の研究所や、DuPont, Dow, Monsanto, Rohm and Haas, Hoechst などの企業の研究所で講演をさせられました。当時はきつくて嫌だと思いましたが、よい経験になりました。ABT の試験も、半

年くらい前になって突然「受かってこい」と命令されたときは無茶なことを言うなと思いましたが、結局良い勉強になりました。旅行などには興味がなく、人付き合いが苦手な私が、曲がりなりにも毒性学会の仲間に入れて頂けたのも先生のお陰と思います。

ご家族に見守られながら、老衰で眠るように安らかに 90 歳の人生を閉じられたとのことを奥様から伺いましたが、先生が最後に見られた夢は毒性学の発展では無かったかなと思います。これからも毒性学の発展を見守ってください。心からご冥福をお祈り申し上げます。

日本毒性学会名誉会員

津田 修治

白須泰彦先生を偲んで

白須泰彦先生（日本毒性学会名誉会員）が 2021 年 2 月 12 日に 92 歳で逝去されました。当時 COVID-19 ウイルス感染拡大による緊急事態宣言下であったことから、ご家族以外どなたにも知らせず、家族葬をなされたとのことでした。その訃報の知らせを奥様から受けたのは 5 か月後の 2021 年 7 月でした。その訃報を知った時は、白須先生が逝去されたとは思っていませんでしたので、私は絶句すると同時に深い喪失感に陥りました。奥様からのお手紙には、4 年ほど前から先生は体調を崩されていたとのことで、さらに 2 年前には心不全で緊急入院されましたが、一命を取り留め、ご本人の希望で退院され、在宅医療をその後続けていらっしたとのことでした。

白須先生は、1970 年に設立された財団法人残留農薬研究所の初代毒性部部长となられ、遺伝毒性・発がん性に関する研究に長く従事されました。特に、遺伝毒性の研究においては、Rec-assay 法を確立し、それが有効かつ迅速で経済的な試験法であることを実証されました。また、先生は復帰突然変異試験など各種生物を用いた遺伝毒性試験結果を組み合わせることにより、ヒトに対する農薬の遺伝毒性についての評価が可能となることを見出しました。さらに、1972 年の農薬取締法の改正に伴い、新規農薬についてはラット・マウスを用いた長期発がん性試験の提出が義務付けられたことから、残留農薬研究所では白須先生の指導の下で多くの長期発がん性試験を実施することとなり、発がん性についての新知見を見

出すと共に多くの業績を残されました。私は 1974 年に残留農薬研究所に採用され、農薬や化学物質の発がん性試験における病理検査を担当し、遺伝毒性に加えて発がん性の評価法について白須先生から多くを学ばせていただきました。また、先生から「新知見は学会発表のみならず、その知見を世界に発信させるため英語論文として学術雑誌に投稿すべきである。」と何回も指摘されましたが、その提言は、科学者として当たり前のことであり、後の大学での私の教育理念にも大きく反映させていただきました。

白須先生は、後進の指導にも尽力され、残留農薬研究所から多くの弟子を毒性専門家として世の中に輩出されました。また、日本毒性学会の理事、名誉会員、年会長（1978 年）として長年にわたり学会の発展に大きく貢献されました。私事ですが、白須先生には私の米国国立環境衛生科学研究所（NIEHS）への留学、国立医薬品食品衛生研究所病理部への異動、そして東京農工大学獣医病理学研究室への転任等、私の人生の岐路におきまして的確なアドバイスを頂きました。長年にわたる暖かいご指導に感謝すると共に、心から哀悼の意を表し、謹んでご冥福をお祈りいたします。

2021 年 10 月 31 日

日本毒性学会功労会員 / 東京農工大学名誉教授

三森 国敏

役員選挙の公告

2021年12月1日

一般社団法人 日本毒性学会
社員 各位

一般社団法人 日本毒性学会
理事長 菅野 純
総務委員長 高橋 祐次

公告：理事・監事候補者の選挙について

本年度は次期〔任期：2022年7月1日（社員総会）より2024年社員総会開催日〕理事および監事（役員）候補者選挙の年にあたります。本学会の定款、理事・監事選出規程ならびに理事および監事候補の選出に関する細則に従い、下記の通り選挙を実施することをお知らせ致します。

記

1. 選挙による役員候補者の選出数は理事16名、監事2名です。
2. 選挙人（選挙権を有する者）は本学会評議員です。
3. 候補者（被選挙資格を有する者）は、以下の方々を除く本学会評議員です。
被選挙資格を有しない評議員
 - ① 現理事長（選出規程により自動的に理事に選出）
 - ② 理事または監事を連続二期務めている評議員
 - ③ 2022年4月2日の時点で満66歳以上の評議員
4. 選挙（投票）は、郵送方式で以下の期間に実施する予定です。
2022年1月7日（金）～2022年3月11日（金）
本会評議員には、2022年1月初旬に投票用紙等と共に「被選挙対象者（候補者）リスト」および「同対象外リスト」を郵送いたします。
5. 開票は選挙期間終了後速やかに行い、役員候補者を選出します。選出された役員候補者は、理事会の承認および2022年7月1日に開催予定の社員総会での承認を経て、役員に就任することになります。
6. 以上の役員選挙に関しては、2021年11月24日の総務委員会で承認された以下の選挙管理委員会委員が執り行います。
選挙管理委員会委員 ： 菅野 純、青木豊彦、北嶋 聡、熊谷嘉人、鈴木 睦
開票立会人（監事） ： 天野幸紀、務台 衛

以 上

日本毒性学会教育委員会からのお知らせ（第6報）

教育委員会の各種事業は下記の要領で実施する予定です。詳細は決まり次第、学会ホームページおよび毒性学ニュースでお知らせします。

なお、学会主催講習会は、トキシコロジーに関する知識（基礎知識）を幅広く学習する基礎教育講習会とトキシコロジストとしての知識をアップデート・ブラッシュアップする生涯教育講習会として位置付けすることを基本方針として開催いたします。

「第25回日本毒性学会基礎教育講習会」

本講習会はトキシコロジストの系統的な基礎教育あるいは再教育を目的としております。また、トキシコロジー全般にわたる理解を深めたいうで、日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験受験にお役立て下さい。講習は動画配信形式で行います。受講者の皆様には4月下旬にダウンロード方法をご案内いたします。

1. 日 時

2022年4月下旬～認定トキシコロジスト試験前まで

2. 形 式

オンデマンド動画配信

3. 申 込

1) 申込期間

2022年1月17日(月)～2022年3月31日(木)

2) 申込方法

当学会ホームページよりお申込下さい。

登録後、期限内に次項の要領で受講料を納入下さい。

受講料入金の確認後追って受講案内をお送りします。

3) 納入方法

ホームページよりお申込の上、下記銀行口座へお振込み下さい。

銀行：みずほ銀行

支店：麴町支店(021)

口座番号：普通 1348658

口座名義：一般社団法人日本毒性学会

*振込手数料はご負担ください。

*ご所属名でお振込みの際は、事務局までメールで受講者氏名(会員の方は会員番号)、所属、振込日、振込金額をご連絡下さい。

4) 受講料

一般会員：25,000円 学生会員：5,000円

非会員：30,000円 学生非会員：8,000円

認定トキシコロジスト：20,000円

*領収書につきましては、参加証と一緒に送付いたします。宛名のご指定がある場合は、申込時に入力下さい。

*キャンセルに伴う返金に関しては、講習会資料事前案内前に限り、対応します。事務局から案内後は納入済み受講料の返金は原則として致いたしませんのでご了承下さい。

5) その他

*受講修了者には受講証明書を発行します。

「第23回日本毒性学会生涯教育講習会」

本講習会では、学習フレームを、①トピック、②トキシコロジスト・ブラッシュアップセミナーとして実施しております。本年も同様のフレームで開催を予定しておりますので、是非、積極的なご参加をお待ちしております。

トピックスは、SOTの学術年会時に開催される教育コースから、2つのテーマを選び、新しい科学及び技術に関する最新のトピックスを学習する場としていきます。トキシコロジスト・ブラッシュアップセミナーでは、各種毒性反応について基礎メカニズムから社会的に最新の毒性学の話題を含め深く学習する場としていきます。また、学習テーマに関連する共通知識として「非病理学者のための病理学講義」をセミナーに組み入れていきます。講習会資料はダウンロード形式としております。受講者の皆様には6月中旬にダウンロード方法をご案内いたします。

1. 日 時

2022年学術年会開催時期

2. 形式

オンデマンド動画配信

3. プログラム (仮)

- 1) トピックス SOT2022 CE コースから：2題。
演題・演者選定中
- 2) トキシコロジスト・ブラッシュアップセミナー：
“マイクロ/ナノマテリアル粒子による影響”

石橋 弘志 先生 (国立大学法人愛媛大学大学院)
「PFASs による環境汚染と毒性影響評価 (仮)」

高橋 祐次 先生 (国立医薬品食品衛生研究所)
「粒子毒性学 基礎」

中山 祥嗣 先生 (国立研究開発法人国立環境研究所)
「PFAS の健康影響：疫学調査とメカニズム研究」

美谷島 克宏 先生 (東京農業大学)
「非病理担当者のための病理学講座～今さら聞けない特殊染色で何が分かるか (仮)」

4. 参加費 (1日フルコースとして設定) (予定)

事前申込

会 員	5,000 円
非会員	7,000 円
認定トキシコロジスト	3,000 円

当日申込

会 員	7,000 円
非会員	10,000 円
認定トキシコロジスト	5,000 円

「第 24 回日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験」

我が国の安全性試験の信頼性向上とトキシコロジーの進歩に寄与するため、質の高い専門家を認定するための試験です。受験資格の詳細については、毒性学ニュース及び学会ホームページの『一般社団法人日本毒性学会認定トキシコロジストの認定制度規程』をご覧ください。日本語・英語いずれかの受験になります。英語受験を希望する場合は、願書の英語受験希望欄にチェックを入れてください。

1. スケジュール

2021 年 12 月 5 日 (日) :

認定試験 (9 : 45 ~ 17 : 00 予定)

予備日 12 月 12 日 (日)

中止の場合

2021 年度は認定試験を実施しない。

2. 会 場

昭和大学 旗の台キャンパス

3. 受験料

30,000 円

「認定トキシコロジスト資格の更新」

2002 年, 2007 年, 2012 年, 2017 年に認定トキシコロジストに認定された方となります。詳細は 2022 年 4 月頃にメールをお送りいたしますのでご確認ください。

毒性学ニュース, 学会ホームページの『一般社団法人日本毒性学会認定トキシコロジストの認定資格更新に関する細則』をご覧ください。

「認定トキシコロジスト試験問題作成依頼について」

資格更新のための試験問題作成の依頼は 6 月上旬, 締め切りは 8 月中旬を予定しています。なお, 可能な限り, 2018 年 5 月発刊の「第 3 版トキシコロジー」からの出題をお願いいたします。その他, 詳細につきましては, 2022 年 6 月にご案内いたします。

第49回日本毒性学会学術年会のご案内（第3報）

（年会ホームページ：<http://www.jsot2022.jp/>）

※本年会は現地開催を予定しております。

1. 会期
2022年6月30日（木）～7月2日（土）
 2. 会場
札幌コンベンションセンター
〒003-0006 札幌市白石区東札幌6条1丁目1-1
TEL：011-817-1010
URL：<https://www.sora-scc.jp/>
 3. テーマ
One Health と毒性学
 4. 年会長
石塚真由美
（北海道大学大学院獣医学研究院 環境獣医学分野毒性学教室）
 5. プログラム委員（敬称略・五十音順）
鈴木 睦（協和キリン（株））
高橋 祐次（国立医薬品食品衛生研究所）
広瀬 明彦（国立医薬品食品衛生研究所）
吉成 浩一（静岡県立大学）
 6. 特別企画（予定、仮題、敬称略、順不同）
 - 1) 第19回市民公開セミナー
日時：2022年7月3日（日）
会場：北海道大学獣医学部 講義棟（講堂）（予定）
 - 2) 年会長招待講演
 - 3) 特別講演
・坂本 峰至（国立水俣病総合研究センター）
 - 4) 教育講演
・堀井 郁夫（ファイザー）
・渡辺 知保（長崎大学大学院 熱帯医学・グローバルヘルス研究科）
・石井 健（東京大学医学研究所 感染・免疫部門 ワクチン科学分野）
 - 5) シンポジウム
・マイクロサンプリングの現状と展望
・薬剤安全性に関する個体差研究
- ・我が国における新規試験法開発大型プロジェクトの成果と今後の進展
 - ・子供の毒性学：子どもの脳発達の問題
 - ・KSOT 合同シンポジウム
 - ・COVID-19 重症化・後遺症のリスク管理と対策
 - ・化学物質による免疫毒性：毒性発現機序と生体防御機構
 - ・ヒト用医薬品の環境リスク評価研究の進展と将来展望
 - ・未解決問題－抗体療法におけるサイトカイン放出症候群－
 - ・事例紹介：ノックアウトマウスのオンターゲット毒性情報を候補化合物の開発にどのように結びつけるのか－ROR γ KO マウスの事例から
 - ・生体金属部会シンポジウム：～ヒ素の毒性発現機序の解明に向けた挑戦～
 - ・拡大する MPS 研究－「魔の川」と「死の谷」を越えて
 - ・生体金属部会シンポジウム：～若手研究者による毒性学研究を支える元素分析の最先端～
 - ・動物実験の3Rsの更なる進展に向けて
 - ・【日本中毒学会合同シンポジウム】吸入剤による中毒の基礎と臨床
 - ・ダイオキシン類およびダイオキシン受容体の毒性学
 - ・【日本毒性病理学会合同シンポジウム】rasH2-Tg(tg/wt) マウスを用いたがん原性評価
 - ・次世代の実験動物として小型魚類（ゼブラフィッシュ・メダカ）の可能性－毒性研究の新たな役者
 - ・毒性試験では検出が困難な臨床副作用－非臨床からの新たなアプローチ
 - ・精巢毒性・精子機能評価の新展開－身の回りの環境要因との関わりとヒトへの外挿を目指して－
 - ・リードアクロス研究の新機軸：安全性評価・規制利用からドラッグリポジショニングへ
 - ・ICH E14/S7B Q&A の最新情報及び今後の展望
 - ・先進的 in vitro ヒト外挿モデルの安全性研究への応用
 - ・環境生物に対する化学物質の影響評価
 - ・「ケース・バイ・ケース」で考えるバイオ医薬品の非臨床安全性評価への新たなアプローチ
 - ・動物試験 up to date ～ Outreach と Well-being の視点から～
 - ・近位尿細管上皮細胞の三次元培養モデルの有用性－腎薬物動態・毒性の予測を目指して－
 - ・第2回 ACT/JSOT Joint Session

- ・精度の高い発達神経毒性評価を目指した研究アプローチ
- ・医薬品の投与と授乳に関するリスク評価及びリスクコミュニケーション
- ・生体外異物の環境健康評価と毒性評価法の基盤開発
- ・遺伝毒性研究のフロントライン：ゲノム不安定性の制御を見据えたハザードの同定とそのリスク評価
- ・AIが牽引する生物学の展望と毒性学
- ・計算機科学を活用したヒトの有害事象研究の現状と展望
- ・若手研究者による野生動物毒性評価最前線
- ・【日本癌学会合同シンポジウム】発がん性評価法の分子背景と展望2.0 - エピゲノム, 変異シグネチャーから見たヒト外挿考察 -
- ・臨床・非臨床横断的なCDISC標準データの新薬開発におけるさらなる利活用を目指して
- ・サリドマイド研究の新展開：代謝から種差を説明する
- ・妊婦の甲状腺機能低下と次世代への影響
- ・近年の眼科領域における医薬品応用と毒性評価
- ・概日リズムを考慮した毒性学：「時間毒性学」
- ・次世代研究セミナー
- ・SOT 合同シンポジウム
- ・ナノマテリアルの評価手法の発展とアドバンスドマテリアルへの対応
- ・遺伝子・細胞治療薬開発とその安全性評価

6) ワークショップ

- ・小児用医薬品開発における非臨床試験の課題
- ・新毒性質問箱：医薬品開発初期における非臨床安全性評価の現状と課題を語り合う～PMDAと開発企業、点と点を結ぶ新たな挑戦～
- ・エクスポソームの新戦略
- ・新規治療モダリティのfirst-in-human臨床試験における初回用量提案の戦略
- ・創薬・開発安全性研究を牽引するin vitro, in silico研究の現状
- ・臨床試験における副作用の非臨床におけるアプローチ
- ・トキシコロジストのキャリア形成支援プログラム

7. 一般演題募集

- 1) 一般演題（口演およびポスターでの発表）を2022年1月12日(水)から受け付ける予定です。主発表者（プレゼンター）は本学会会員に限りませんので非会員の方は、日本毒性学会事務局にて入会の手続きをお願いします。
日本毒性学会ホームページ：<http://www.jsot.jp>
なお、ポスターとスライド作成は、原則英語となります。（口頭発表及び討論は日本語で構いません。英語による発表・議論も可です）
※本年会は現地開催を予定しております。ご発表は現地会場をお願いします。

- 2) 演題登録はインターネットを利用したオンライン登録のみです。下記8に記載する「演題登録要領」を参照の上、年会ホームページから登録して下さい。

演題申込開始日：

2022年1月12日(水) (予定)

演題申込締切日：

2022年2月28日(月) (予定)

- 3) 一般演題は口演またはポスター発表とします。口演発表につきましては、発表と討論の時間を合わせて10～15分程度を予定しています。詳細は、演題申込数を考慮の上、決まり次第主発表者へE-mailにてお知らせいたしますので、ホームページなどで随時ご確認下さい。発表方法は液晶プロジェクターのみです。ポスター発表は、毎日貼替えてポスター展示を行い、途中に質疑応答時間を設けます。

4) 優秀研究発表賞応募演題

2022年3月31日時点で35歳以下の方を対象として候補者を募集します。

応募者は演題申込時にその旨登録して下さい。応募者はポスター発表に加え、別会場で口頭発表と質疑応答を第1日目(6月30日(木))に行っていただきます。受賞者の発表は、第3日目(7月2日(土))に行います。授賞式等詳細は、年会ホームページにて追ってご案内いたします。受賞者には、賞状と副賞を授与します。

5) 学生ポスター発表賞応募演題

学術年会(2022年6月30日(木))の時点で学生(大学院生を含む、ただし社会人大学院生は除く)のポスター発表(筆頭著者)の方を対象とします。

応募者は演題申込時にその旨登録して下さい。審査はポスター発表内容のみで行います。対象のポスターは第1日目(6月30日(木))に掲示し、受賞者の発表は、第3日目(7月2日(土))に行います。授賞式等詳細は、年会ホームページにて追ってご案内いたします。受賞者には、賞状と副賞を授与します。

※上記, 4), 5) の賞への重複申請は不可とします。

8. 演題登録要領

演題登録はインターネットを利用したオンライン登録のみです。締め切り間際はアクセス集中によりサーバー処理能力が極端に低下します。そのため、登録に時間を要する、あるいは登録が完了で

きないといった事態が生じることが予測されますので、演題募集要領と年会ホームページを熟読した上で、余裕をもって登録して下さい。

◆登録方法ならびに登録確認・訂正◆

年会ホームページにアクセスし、演題募集のメニューより案内に従って、次の流れのように登録を進めて下さい。なお、演題登録は発表者本人が行って下さい。発表者個人情報登録→一般演題登録→共著者・演題情報登録→登録内容確認→登録完了

1) 発表者個人情報登録

発表者は本学会会員に限ります。登録には会員番号（5桁）が必要です。パスワード（半角英数）は登録内容の確認や変更を行うときに使用します。4文字以上10文字以内で入力して下さい。なお、パスワードはメニューページの「パスワードを変更する」より変更することが可能です。入力したパスワードは各自で大切に記録・保管して下さい。

2) 共著者・演題情報登録

2-1) 共著者情報登録

共著者の氏名・所属を入力して下さい。共著者数は最大20名、所属機関名は最大15施設まで登録可能です。

2-2) 演題カテゴリー登録

詳細については、年会ホームページにて追ってご案内いたします。

2-3) 発表形式

発表形式を「口演」、「ポスター」、「どちらでも可」の中から選択して下さい。優秀研究発表賞もしくは学生ポスター発表賞に応募する場合は「ポスター」を選択して下さい。

優秀研究発表賞もしくは学生ポスター発表賞への応募の有無を選択して下さい。

2-4) 演題名

文字数について、登録ページの入力欄には、文字数制限がありません。下記を目処にお願いします。

日本語演題名 文字数：
最大全角 80 文字（スペース含め）

英語演題名 文字数：
最大半角 200 文字（スペース含め）

なお、演題名に特殊文字／上付き／下付き／ボールド／イタリックなどの文字を含む場合には、下記ページのHTMLタグを使用し、入力して下さい。

ただし、このHTMLタグは、上記文字数にはカウントしません。

〈タグ一覧／特殊文字一覧／よく使用する特殊文字ページ〉
http://www.senkyo.co.jp/tag/ja/tag_list.html

2-5) 要旨作成要領

日本語及び英語の要旨のご提出をお願いします。本文の文字数は、日本語：全角として800字以内、英語：半角として600字以内（スペース含む）です。上記文字数を超えると登録できませんので、ご注意下さい。本文中に演題名・所属・氏名・図表等を入れしないで下さい。

3) 登録内容確認・訂正

登録の最後に登録情報の確認画面が表示されますので、内容を確認・訂正して下さい。後日改めて確認・訂正を行う場合は、登録時に入力したパスワードを用いて確認・訂正画面を表示させることができます。

4) 登録完了

登録が完了すると演題登録番号が表示されます。登録したメールアドレス宛てに演題登録完了メールが送信されますので確認して下さい。翌日まで経過してもメールが届かない場合は事務局までご連絡下さい。

9. 参加登録および参加費

事前参加申込開始日：

2022年1月12日（水）（予定）

事前参加申込締切日：

2022年5月11日（水）（予定）

1) 参加費

※学会会員の参加費は「不課税」、関連学会会員、非会員の参加費と懇親会費は「課税（消費税込）」となります。

カテゴリー	事前参加登録	当日参加登録
会員	12,000円	14,000円
学生会員	3,000円	4,000円
関連学会会員*1	13,000円	15,000円
非会員	15,000円	17,000円
懇親会費（一般）	8,000円	10,000円
懇親会費（学生）	2,000円	2,000円

*1 次の学会会員の方を予定しています。（50音順）

共催：日本中毒学会
 日本毒性病理学会
 日本免疫毒性学会
 日本薬理学会
 米国 SOT (Society of Toxicology)

協賛：日本安全性薬理研究会
 日本医薬品情報学会
 日本衛生学会
 日本環境化学会
 日本環境毒性学会
 日本環境変異原ゲノム学会
 日本産業衛生学会
 日本実験動物学会
 日本獣医学会
 日本食品衛生学会
 日本食品化学学会
 日本先天異常学会
 日本動物実験代替法学会
 環境ホルモン学会(日本内分泌攪乱化学物質学会)
 日本薬学会
 日本薬物動態学会
 比較眼科学会
 北海道薬物作用談話会

2) お支払い方法

・クレジットカード
 ※決済等の詳細については、年会ホームページにて追ってご案内いたします。

10. 懇親会

次の通り懇親会を開催いたしますので、是非ご参加下さい。

日時：2022年7月1日(金) 18:45～

場所：サッポロビール園

<https://www.sapporo-bier-garten.jp/>

11. 展示, ランチョンセミナーなどの募集

展示, ランチョンセミナー, 広告掲載を募集します。詳細については年会ホームページをご覧ください。

12. 年会事務局

〒060-0818 札幌市北区北18条西9丁目

北海道大学大学院獣医学研究院 環境獣医科学分野
 毒性学教室

事務局長：中山 翔太

E-mail：secretariat@jsot2022.jp

医薬品毒性機序研究部会主催

第4回 医薬品毒性機序研究会

この度、第4回研究会を2021年12月16日～17日にWEBにて開催させていただくことになりました。医薬品毒性機序研究に関する事例、最新技術などについての情報収集の場として、是非ご参加していただきたくお願い申し上げます。特別講演、教育講演、シンポジウム、企業シンポジウムとポスター発表を予定しております。

「進化するモダリティと新技術の展開」をテーマとしておりますが、関連する研究に限らない幅広い話題について、議論のできる会にしたいと思っております。一般演題はすでに他学会で発表済みの内容、研究途中の内容も歓迎します。更に深い議論の場としていただけましたら幸甚です。

皆様のご参加を心よりお待ちしております。

会 期 2021年12月16日（木）～17日（金）
16日：9：00～18：00（予定）
17日：9：00～17：00（予定）

WEBでの開催

実行委員長 渋谷 淳
(東京農工大学大学院 共同獣医学専攻)

テーマ 「進化するモダリティと新技術の展開」

プログラム概要

- ◎特別講演
全身全細胞解析の実現にむけて
上田 泰己
(東京大学大学院医学系研究科、理化学研究所生命機能科学研究センター)
- ◎教育講演
エビジェネティクス入門
— その分子基盤から臨床応用まで —
仲野 徹 (大阪大学大学院医学系研究科・病理学)

◎シンポジウム (4セッション)

1. 新技術が作り出す毒性機序研究の新たな可能性
2. 機序を踏まえた、動物を使用しない毒性・安全性評価
3. オルガノイド技術の創薬研究への展開
4. 多様な医薬品モダリティに対応する毒性研究

◎企業企画シンポジウム (3セッション)

- ◎ポスター発表 (若手優秀発表賞あり)
ポスター形式の一般演題を募集します。
(2～3分程度のフラッシュトークをお願いする予定です)
詳細は研究会ホームページをご覧ください。
<http://www.senkyo.co.jp/iyakudokuken/>

演題申込期間

2021年9月3日（金）～11月8日（月）

参加登録

事前参加登録：
2021年9月3日（金）～11月12日（金）
一般 6,000円、学生 3,000円

事務局

東京農工大学大学院 共同獣医学専攻
〒183-8509 東京都府中市幸町3-5-8
Tel：042-367-5771
E-mail：kijoken4@m2.tuat.ac.jp

プログラム (予定)

- ◎特別講演
全身全細胞解析の実現にむけて
上田 泰己 (東京大学大学院医学系研究科 理化学研究所生命機能科学研究センター)

◎教育講演

エピジェネティクス入門

—その分子基盤から臨床応用まで—

仲野 徹 (大阪大学大学院医学系研究科・病理学)

◎シンポジウム (4 セッション)

1. 新技術が作り出す毒性機序研究の新たな可能性
 - ・質量顕微鏡法による医薬品の毒性メカニズム研究
瀬藤 光利 (浜松医科大学 国際マスイメージングセンター 細胞分子解剖学講座)
 - ・In vivo イメージング技術の毒性評価への応用
藤井 雄太, 吉野 有香, 千原 和弘, 宮脇 出
(大日本住友製薬株式会社 前臨床研究ユニット)
 - ・HLA 遺伝子導入マウスを用いた特異体質薬物毒性の理解
青木 重樹, 伊藤 晃成 (千葉大学大学院薬学研究院 生物薬剤学研究室)
 - ・染色体工学技術によるヒト化モデル動物・多機能細胞の作製と創薬研究への応用
香月 康宏 (鳥取大学 染色体工学研究センター)
2. 機序を踏まえた, 動物を使用しない毒性・安全性評価
 - ・マイクロ工学を基盤技術とする生体模倣システム (MPS) とその応用
木村 啓志 (東海大学 工学部 機械工学科)
 - ・評価初期の機序推定を目指した化合物の毒性予測モデルの開発
天野 雄斗 (花王株式会社 安全性科学研究所)
 - ・ヒト外挿性評価を試みる in vitro approach と将来
篠澤 忠紘 (武田薬品工業株式会社 薬剤安全性研究所)
 - ・ラット反復投与毒性予測におけるインビトロ試験の活用: AI-SHIPS プロジェクトでの事例紹介
吉成 浩一 (静岡県立大学 薬学部 衛生分子毒理学分野)
3. オルガノイド技術の創薬研究への展開 (日本毒性病理学会共催企画)
 - ・オルガノイドを用いる *ex vivo* 化学発がんモデル
今井 俊夫^{1,2}, 石ヶ守 里加子², 中西 るり², 成瀬 美衣² (¹ 国立がん研究センター研究所がんモデル開発部門, ² 国立がん研究センター研究所

動物実験施設)

- ・化学発がん性物質暴露によるオルガノイドの形態変化の解析: 発がん性指標としての可能性
平田 暁大¹, 田邊 健斗¹, 入澤 祐太^{1,2}, 今井 俊夫³, 酒井 洋樹¹ (¹ 岐阜大学 応用生物科学部 共同獣医学科 獣医病理学研究室, ² あすか製薬株式会社 薬物動態・安全性研究部 安全性研究課, ³ 国立がん研究センター研究所 がんモデル開発部門)
 - ・マウス腸管由来オルガノイドを用いた毒性評価への応用
美谷島 克宏¹, 齋藤 由季^{2,3}, 服部 一夫²
(¹ 東京農業大学 応用生物科学部 食品安全健康学科, ² 東京農業大学 応用生物科学部 栄養科学科, ³ 新潟県立大学 人間生活学部 健康栄養学科)
 - ・三次元オルガノイド培養法を用いたオーダーメイド獣医療の開発と創薬への応用
白井 達哉 (東京農工大学 農学部 獣医薬理学研究室)
 - 4. 多様な医薬品モダリティに対応する毒性研究
 - ・DNA/RNA レベルで生体を制御するモダリティの毒性研究
井上 貴雄 (国立医薬品食品衛生研究所 遺伝子医薬部)
 - ・再生・細胞医療に用いられる細胞加工製品の造腫瘍性評価のための試験法開発
佐藤 陽治 (国立医薬品食品衛生研究所 再生・細胞医療製品部)
 - ・抗体薬物複合体の非臨床安全性評価
間 哲生 (第一三共株式会社 安全性研究所)
 - ・非天然型構造を有するペプチド医薬品の安全性評価
斎藤 嘉朗¹, 出水 庸介² (¹ 国立医薬品食品衛生研究所 医薬安全科学部, ² 国立医薬品食品衛生研究所 有機化学部)
- ◎企業企画シンポジウム (3 セッション)
- ・株式会社ボゾリサーチセンター
 - ・株式会社 LSIM 安全科学株式会社
 - ・株式会社フェニックスバイオ

◎ポスター発表 (若手優秀発表賞あり)

2022 年度日本毒性学会 特別賞 候補者推薦要領

社会における毒性学の認知度の向上, 発展, 充実に大きく貢献した非会員の研究者に日本毒性学会特別賞を授与する。

候補者の資格：日本毒性学会非会員。

推薦者の資格：日本毒性学会理事。

表彰：授賞者数は毎年, 最大1名とし, 賞状および副賞を授与する。授賞式は日本毒性学会学術年会の総会終了後に行う。

受賞講演：受賞者（或いは代理人）は日本毒性学会学術年会にて受賞講演を行う。

候補者の推薦：理事1名の推薦を必要とする。推薦者は, 受賞候補者に関する下記事項を所定用紙に記入し, 日本毒性学会理事長宛（事務局）に電子メールで提出する。

- ・推薦書（候補者氏名, 授賞タイトルを所定の用紙に記入したもの）
- ・推薦理由（1,000字以内）
- ・特別賞の対象となる業績目録：原著論文, 総説・著書, 主催, 発表等

推薦書類の送付先：jsotq@jsot.jp
（日本毒性学会事務局）

推薦締切：2021年12月31日（金）

2022 年度日本毒性学会 学会賞 候補者推薦要領

毒性学に関連する顕著な研究業績をあげ、かつ日本毒性学会の発展充実に大きく貢献した本会会員に日本毒性学会学会賞を授与する。

候補者の資格：現に 10 年以上継続して日本毒性学会の会員であり、授賞年度の 4 月 1 日に満 65 歳以下である者。ただし、推薦される研究課題で既に他学会等の賞を受けている者は対象とならない。

推薦者の資格：日本毒性学会評議員。

表彰：授賞者数は毎年 1 名とし、賞状および副賞を授与する。授賞式は 2022 年度の日本毒性学会学術年会の総会終了後に行う。

受賞講演：受賞者は 2022 年度の日本毒性学会学術年会にて受賞講演を行う。

候補者の推薦：評議員 1 名の推薦を必要とする。推薦者は、受賞候補者に関する下記事項を所定用紙に記

入し、日本毒性学会理事長宛（事務局）に電子メールで提出する。なお、所定用紙（Word ファイル）は日本毒性学会ホームページ（<http://www.jsot.jp/award/index.html>）からダウンロードして使用すること。

- ・推薦書（候補者氏名、略歴、会員歴等を所定の用紙に記入したもの）
- ・推薦理由（2,000 字以内）
- ・学会賞の対象となる業績目録：原著論文（J.Toxicol. Sci. または Fundam. Toxicol. Sci. に掲載論文には丸印を付ける）、総説・著書
- ・過去 5 年間に日本毒性学会学術年会で発表した一般講演演題リスト（共同著者となっている演題を含む）

推薦書類の送付先：jsotq@jsot.jp
（日本毒性学会事務局）

推薦締切：2021 年 12 月 31 日（金）

2022 年度日本毒性学会 奨励賞 候補者推薦要領

毒性学に関する研究において独創的な研究業績をあげつつあり、将来が期待される本会会員に日本毒性学会奨励賞を授与する。

候補者の資格：現に3年以上継続して日本毒性学会の会員であり、授賞年度の4月1日に満40歳以下である者。ただし、推薦される研究課題で既に他学会等の賞を受けている者は対象とならない。

推薦者の資格：日本毒性学会評議員。

表彰：授賞者数は毎年3名以内とし、賞状および副賞を授与する。授賞式は2022年度の日本毒性学会学術年会の総会終了後に行う。

受賞講演：受賞者は2022年度の日本毒性学会学術年会にて受賞講演を行う。

候補者の推薦：評議員1名の推薦を必要とする。推薦者は、受賞候補者に関する下記事項を所定用紙に記入し、日本毒性学会理事長宛（事務局）に電子メールで提出する。なお、所定用紙（Word ファイル）は日本毒性学会ホームページ（<http://www.jsot.jp/award/encourage.html>）からダウンロードして使用すること。

- ・推薦書（候補者氏名、略歴、会員歴等を所定の用紙に記入したもの）
- ・推薦理由（2000字以内）
- ・奨励賞の対象となる業績の目録：原著論文（J.Toxicol. Sci. または Fundam. Toxicol. Sci. に掲載論文には丸印を付ける）、総説・著書
- ・過去3年間に日本毒性学会学術年会で発表した一般講演演題リスト（共同著者となっている演題を含む）

推薦書類の送付先：jsotq@jsot.jp
（日本毒性学会事務局）

推薦締切：2021年12月31日（金）

2022 年度日本毒性学会 佐藤哲男賞（国際貢献賞） 候補者推薦要領

毒性学に関連する顕著な研究業績をあげ、かつ日本毒性学会の発展充実に大きく貢献した本会会員に日本毒性学会佐藤哲男賞（国際貢献賞）を授与する。

候補者の資格：現に10年以上継続して日本毒性学会の会員であるもの。ただし、推薦される研究課題で既に他学会等の賞を受けているものは対象とならない。

推薦者の資格：日本毒性学会評議員1名。

表彰：授賞者数は毎年、最大1名とし、賞状および副賞を授与する。授賞式は日本毒性学会学術年会の総会終了後に行う。

受賞講演：受賞者（或いは代理人）は日本毒性学会学術年会にて受賞講演を行う。

〈備考〉

一般社団法人日本毒性学会 佐藤哲男賞（国際貢献賞）選考規程

平成31年1月25日 制定
令和2年12月9日 改定

第1条 設置：日本毒性学会は、本会における佐藤哲男博士の国際的及び学術的貢献に敬意を表し、佐藤哲男賞（国際貢献賞）を設ける。

第2条 授賞の対象：毒性学に関連する研究、後進の育成を含めた毒性学教育と共に毒性学分野における国際活動において優れた貢献を果たした本会会員に授与する。

第3条 候補者の資格及び推薦条件：現に10年以上継続して日本毒性学会の会員であるもの。

第4条 表彰：授賞者数は毎年1名とし、賞状および副賞を授与する。授賞式は当該年度の日本毒性学会学術年会の総会にて行う。

第5条 受賞講演：受賞者は当該年度の日本毒性学会学術年会にて受賞講演を行う。

第6条 候補者の推薦：評議員1名の推薦を必要とする。推薦者は、授賞候補者に関する所定書類を日本毒性学会理事長（事務局）に12月31日までに提出する。

1. 推薦書（候補者氏名、略歴、会員歴、本会における委員等の職歴等を所定の用紙に記入したもの）
2. 推薦理由（1,000字以内）
3. 当賞の対象となる業績目録：原著論文（J. Toxicol. Sci. または Fundam. Toxicol. Sci. に掲載された論文に丸印を付ける）、総説・著書、依頼・招待講演（毒性学教育に関するものに限る、日本毒性学会学術年会で発表した演題には丸印を付ける）

候補者の推薦：推薦者は、受賞候補者に関する下記事項を所定用紙に記入し、日本毒性学会理事長宛（事務局）に電子メールで提出する。

- ・推薦書（候補者氏名、授賞タイトルを所定の用紙に記入したもの）
- ・推薦理由（1,000字以内）
- ・佐藤哲男賞（国際貢献賞）の対象となる業績目録：原著論文、総説・著書、主催、発表等

推薦書類の送付先：jsot HQ@jsot.jp
（日本毒性学会事務局）

推薦締切：2021年12月31日（金）

第7条 選考：過去5年間に日本毒性学会学術年会で発表した一般講演演題リスト（共同著者となっている演題を含む）

1. 当賞の選考は、佐藤哲男賞（国際貢献賞）・学会貢献賞選考小委員会が行う。
2. 選考小委員会委員長は理事長と学術広報委員長が協議の上指名し、委員は学術広報委員長と小委員会委員長が協議の上、指名する。委員長および委員の任期は1年とし、再任はさまたげない。
3. 選考小委員会委員長及あるいは選考委員が候補者と同一の講座（大学以外の機関はこれに準ずる部局）に所属する場合、受賞者決定の採決には加わらないものとする。
4. 選考小委員会は授賞者を選定し、選考委員長は、該当者なしの場合を含めて学術広報委員長及び理事長に報告する。
5. 選考方法等に関する申し合せは別途定める。

付則 付記 令和2年12月9日改定の本規定は同日から施行する。
令和2年度に限り、佐藤哲男賞（国際貢献賞）・学会貢献賞選考小委員会を佐藤哲男賞選考委員会と読み替える。

2022 年度日本毒性学会学会貢献賞 候補者推薦要領

日本毒性学会の発展充実に大きく貢献した本会会員に日本毒性学会学会貢献賞を授与する。

候補者の資格：20 年以上継続して日本毒性学会の会員であるもの。

推薦者の資格：日本毒性学会評議員 1 名。

表彰：授賞者数は毎年、最大 1 名とし、賞状、盾および副賞を授与する。授賞式は日本毒性学会学術年会の総会終了後に行う。

候補者の推薦：推薦者は、受賞候補者に関する下記事項を所定用紙に記入し、日本毒性学会理事長宛（事務局）に電子メールで提出する。

なお、所定用紙（Word ファイル）は日本毒性学会ホームページ（<http://www.jsot.jp/award/academic.html>）からダウンロードして使用すること。

1. 推薦書（候補者氏名、授賞タイトルを所定の用紙に記入したもの）
2. 推薦理由（2,000 字以内）
3. 学会貢献賞の対象となる業績目録

推薦書類の送付先:jsotq@jsot.jp（日本毒性学会事務局）

推薦締切：2021 年 12 月 31 日（金）

〈備考〉

一般社団法人日本毒性学会 学会貢献賞 選考規程

令和 2 年 12 月 9 日 制定

- 第 1 条 設置：日本毒性学会は、本会における学会活動の貢献に敬意を表し、学会貢献賞を設ける。
- 第 2 条 授賞の対象：日本毒性学会の発展充実に大きく貢献した本会会員に授与する。
- 第 3 条 候補者の資格及び推薦条件：現に 20 年以上継続して日本毒性学会の会員であるもの。
- 第 4 条 表彰：授賞者数は毎年 1 名、賞状および副賞を授与する。授賞式は当該年度の日本毒性学会学術年会の総会にて行う。
- 第 5 条 候補者の推薦：評議員 1 名の推薦を必要とする。推薦者は、受賞候補者に関する所定書類を日本毒性学会理事長（事務局）に 12 月 31 日までに提出する。
1. 推薦書（候補者氏名、略歴、会員歴、本会における委員等の職歴等を所定の用紙に記入したもの）
 2. 推薦理由（2,000 字以内）
 3. 学会貢献賞の対象となる業績目録：学会の活動に貢献した具体的な業績

第 6 条 選考：

1. 学会貢献賞の選考は、佐藤哲男賞（国際貢献賞）・学会貢献賞選考小委員会が行う。
2. 選考小委員会委員長は理事長と学術広報委員長が協議の上指名し、委員は学術広報委員長と小委員会委員長が協議の上、指名する。委員長および委員の任期は 1 年とし、再任はさまたげない。
3. 選考小委員会委員長あるいは選考委員が候補者と同一の講座（大学以外の機関はこれに準ずる部局）に所属する場合、受賞者決定の採決には加わらないものとする。
4. 選考小委員会は授賞者を選定し、選考委員長は、該当者なしの場合を含めて学術広報委員長及び理事長に報告する。
5. 選考方法等に関する申し合せは別途定める。

付 則 令和 2 年 12 月 9 日改定の本規程は同日から施行する。

付 記 令和 2 年度に限り、佐藤哲男賞（国際貢献賞）・学会貢献賞選考小委員会を佐藤哲男賞選考小委員会と読み替える。

第 48 回日本毒性学会学術年会要旨集の販売について

第 48 回日本毒性学会学術年会の要旨集を 1 部 3,500 円（税・送料込）で販売します。ご希望の方は郵便局に備付けの郵便振替用紙に必要事項をご記入の上、下記口座までお振り込み下さい。ご納入確認後、要旨集を発送致します。

なお、学術年会（第 32 回以降）の要旨はオンライン（J-STAGE）でも閲覧が可能です（<http://www.jstage.jst.go.jp/browse/toxp/-char/ja>）。

振込先：口座番号	00150-9-426831
加入者名	一般社団法人日本毒性学会
要旨集価格	3,500 円（1 部）

通信欄記入事項：①住所 ②氏名（団体の場合は機関名・部署等）③電話番号
④第 47 回学術年会要旨集希望の旨

※通信欄のご記入住所へ送本致します。詳細なご記入をお願い致します。

問い合わせ先：日本毒性学会事務局
〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋 1-1-1
パレスサイドビル
株式会社毎日学術フォーラム内
TEL：03-6267-4550 FAX：03-6267-4555
E-mail：jsothq@jsot.jp

毒性学ニュース索引 (46 卷)

毒性学ニュース索引 (46 巻)

日本毒性学会からのお知らせ

第 48 回日本毒性学会学術年会のご案内 (第 4 報)	No. 1	1		
第 48 回日本毒性学会学術年会のご案内 (第 5 報)	No. 2	15		
第 48 回日本毒性学会学術年会のご案内 (第 6 報)	No. 3	33		
第 49 回日本毒性学会学術年会のご案内 (第 1 報)	No. 4	47		
第 49 回日本毒性学会学術年会のご案内 (第 2 報)	No. 5	91		
第 49 回日本毒性学会学術年会のご案内 (第 3 報)	No. 6	106		
第 48 回日本毒性学会学術年会報告	No. 5	88		
第 47 回日本毒性学会学術年会要旨集の販売について	No. 1	7 / No. 2	20 / No. 3	36
第 48 回日本毒性学会学術年会要旨集の販売について	No. 4	53 / No. 5	90 / No. 6	117
第 24 回日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験	No. 3	27 / No. 4	39	
2021 年度一般社団法人日本毒性学会 評議員会・社員総会報告	No. 5	58		
2021 年度年会費の納入のお願い	No. 3	23		
2022 年度日本毒性学会 特別賞候補者推薦要領	No. 4	49 / No. 5	92 / No. 6	112
2022 年度日本毒性学会 学会貢献賞候補者推薦要領	No. 4	51 / No. 6	116	
2022 年度日本毒性学会 学会賞候補者推薦要領	No. 4	48 / No. 5	93 / No. 6	113
2022 年度日本毒性学会 奨励賞候補者推薦要領	No. 4	52 / No. 5	94 / No. 6	114
2022 年度日本毒性学会 佐藤哲男賞 (国際貢献賞) 候補者推薦要領	No. 4	50 / No. 5	95 / No. 6	115
日本毒性学会教育委員会からのお知らせ (第 3 報)	No. 1	5		
日本毒性学会教育委員会からのお知らせ (第 4 報)	No. 2	18		
日本毒性学会教育委員会からのお知らせ (第 5 報)	No. 3	25		
日本毒性学会教育委員会からのお知らせ (第 6 報)	No. 4	45		
日本毒性学会教育委員会からのお知らせ (第 5 報)	No. 5	96		
日本毒性学会教育委員会からのお知らせ (第 6 報)	No. 6	104		
日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験願書	No. 3	29 / No. 4	41	
認定試験受験資格のための評点表	No. 3	31 / No. 4	43	
日本毒性学会各種委員会委員長	No. 5	57		
日本毒性学会理事監事	No. 5	57		
社員総会開催のご案内と出欠票 (委任状) 提出のお願い	No. 1	8 / No. 2	14 / No. 3	24
役員選挙の公告	No. 6	103		
医薬品毒性機序研究部会主催 第 4 回医薬品毒性機序研究会	No. 6	110		
年会費値上げのお知らせ	No. 2	13		
米国毒性学会 (SOT) 教育コースへの派遣者公募	No. 5	98		
「Society of Toxicology (SOT) 学術年会派遣報告」 - 2 週間にわたるバーチャル学術年会 -	No. 4	54		
第 60 回米国毒性学会 Society of Toxicology SOT 2021 Annual Meeting Virtual 報告 教育コース CE08: Guidelines for Developing and Implementing Organ-on-a-Chip / Microphysiological Systems for Toxicity Evaluation of Drug Candidates	No. 4	55		
「学会賞を受賞して」 広瀬 明彦	No. 5	79		
「佐藤哲男賞 (国際貢献賞) を受賞して」 黒川 雄二	No. 5	80		
「奨励賞を受賞して」 織田 進吾	No. 5	81		
「学会貢献賞を受賞して」 久田 茂	No. 5	81		
「田邊賞を受賞して」 宮澤 正明	No. 5	82		
「田邊賞を受賞して」 久木 友花	No. 5	82		
「田邊賞を受賞して」 天野 雄斗	No. 5	83		
「ファイザー賞を受賞して」 渡 隆爾	No. 5	83		
「ファイザー賞を受賞して」 坂本 義光	No. 5	84		
「ファイザー賞を受賞して」 竹田 修三	No. 5	84		
「ファイザー賞を受賞して」 瀬川 雅博	No. 5	85		
「ファイザー賞を受賞して」 高橋 勉	No. 5	85		
「ファイザー賞を受賞して」 Tin Tin Win Shwe	No. 5	86		
「技術賞を受賞して」 西條 拓	No. 5	86		
「技術賞を受賞して」 青木 重樹	No. 5	87		
黒岩先生追悼	No. 2	11		
白須泰彦先生追悼文	No. 6	101		

その他のお知らせ

株式会社 L S I M 安全科学研究所 試験責任者募集	No. 2	21 / No. 3	37
日本薬物動態学会第 36 回年会	No. 1	9	

一般社団法人日本毒性学会の定款および規程類について

日本毒性学会の定款および規程類については、最新版が学会ホームページ (http://www.jsot.jp/about/rule_list.html) に掲載されています。

特に重要な変更があった場合は、毒性学ニュースで周知を図ることとします。

- 一般社団法人日本毒性学会 定款
- 一般社団法人日本毒性学会 評議員選出規程
- 一般社団法人日本毒性学会 理事・監事選出規程
- 一般社団法人日本毒性学会 理事および監事候補の選出に関する細則
- 一般社団法人日本毒性学会 常置委員会共通規程
- 一般社団法人日本毒性学会 名誉会員・功労会員推薦規程
- 一般社団法人日本毒性学会 入会規程
- 一般社団法人日本毒性学会 賛助会員に関する規程
- 一般社団法人日本毒性学会 学会賞選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 特別賞選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 佐藤哲男賞（国際貢献賞）選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 学会貢献賞選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 奨励賞選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 技術賞選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 田邊賞選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 ファイザー賞選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 日化協 LRI 賞選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 認定トキシコロジストの認定制度規程
- 一般社団法人日本毒性学会 認定トキシコロジストの資格更新に関する細則
- 一般社団法人日本毒性学会 名誉トキシコロジスト表彰に関する細則
- 一般社団法人日本毒性学会 米国毒性学会教育コースへの学会員派遣に関する規程
- J. Toxicol. Sci. 投稿規程
- Fundam. Toxicol. Sci. 投稿規程
- 一般社団法人日本毒性学会 動物実験に関する指針
- 一般社団法人日本毒性学会 個人情報の適正な管理・利用等に関する基本方針
- 一般社団法人日本毒性学会 部会に関する規程

新しい発見を 変わらない品質で

私たち日本クレアは、生命のあらゆる可能性を探求し発展させる基盤として、動物愛護のグローバルな視点に立った世界最高品質の実験動物を提供して参ります。



マウス・ラット・マーモセット

● クローズドコロニー

- マウス** Jcl:ICR
- ラット** Jcl:SD, Jcl:Wistar
Br/Han:WIST@Jcl(GALAS)

● 近交種

- マウス** C3H/HeNjcl, C3H/HeJjcl*
C57BL/6Njcl, C57BL/6Jjcl*
BALB/cAjcl, BALB/cByJjcl*
FVB/Njcl, DBA/2Jjcl*, 129^{+Ter}/Svjcl
- ラット** F344/Jcl

● ハイブリッド系

- マウス** B6C3F1/Jcl, B6D2F1/Jcl
MCH(ICR)/Jcl (Multi Cross Hybrid)

● 疾患モデル

免疫不全モデル

- マウス** BALB/cAjcl-*nu*
C.B-17/ICr-*scid* Jcl
NOD/Shijic-*scid* Jcl
ALY[®]/NscJcl-*aly*

- ラット** F344/Njcl-*rnu*

1型糖尿病モデル

- マウス** NOD/Shijcl

2型糖尿病モデル

- マウス** KK/Tajcl, KK-A^y/Tajcl
BKS.Cg-*m*+/*Lepr^{db}*/Jcl*

- ラット** GK/Jcl, SDT/Jcl, SDT fatty/Jcl

アスコルビン酸合成能欠如モデル

- ラット** ODS/Shijcl-*od*

● 疾患モデル

網膜変性疾患モデル

- ラット** RCS/Jcl-*rdy*

関節リウマチモデル

- マウス** SKG/Jcl

外用保湿剤・外用殺菌消毒薬効果検証モデル

- マウス** NOA/Jcl

● 遺伝子改変動物

短期発ガン性試験モデル

- マウス** CByB6F1-Tg (HRAS)2Jic

乳腺がん高感受性モデル

- ラット** Hras128/Jcl

脾がん短期発がんモデル

- ラット** Kras301/Jcl

生体恒常性維持機構解析モデル

- マウス** *α*-Klotho KO/Jcl

- マウス** *klotho*/Jcl

アレルギーモデル

- マウス** OVA-IgE/Jcl (卵アレルギー)
TNP-IgE/Jcl (化学物質アレルギー)

● Germ free

- マウス** MCH(ICR)/Jcl [Gf], C57BL/6Njcl [Gf]
BALB/cAjcl [Gf]

● コモンマーモセット

- Jcl:C.Marmoset(Jic) (国内生産)

その他の取り扱い動物

● (公財) 実験動物中央研究所維持系統

● フェレット (輸入販売)

生産地：中華人民共和国／輸入販売代理店
(株)野村事務所を通じて国内販売

実験動物用飼料

一般動物用飼料／家畜・家禽試験用飼料／放射線減菌飼料／特殊配合飼料／成分分析

器具・器材

飼育ケージ／飼育機・ラック／自動飼育システム／クリーンエアシステム／バイオハザード対策システム／空調設備・排水処理システム／管理・実験機器／施設計画コンサルティング

受託業務

微生物学的クリーニング／遺伝子改変マウスの作製／モノクローナル抗体作製／受精卵採取・凍結処理／凍結受精卵の供給／系統維持及び生産／各種処置動物作出／マイクロバイオーム研究のサポート(無菌動物・ノトバイオームマウス作製および受託試験)／各種受託試験 他

関連業務

動物輸出入／微生物モニタリング／遺伝モニタリング／各種データ／情報サービス

業務提携

Physiogenex社(仏)：代謝性疾患領域に特化した薬効薬理試験受託サービス
(株)ジーピーシー研究所：イメージングマウスの作製サービス

* This substrain is at least (a number>20 by definition) generations removed from the originating JAX® Mice strain and has NOT been re-infused with pedigreed stock from The Jackson Laboratory.®



www.CLEA-Japan.com

東京A D部	〒153-8533 東京都目黒区東山1-2-7	TEL.03-5704-7050(代)
大阪A D部	〒564-0053 大阪府吹田市江の木町6-5	TEL.06-4861-7101(代)
【動物・飼料のご注文先: AD受注センター TEL.03-5704-7123】		
東京器材部	〒153-8533 東京都目黒区東山1-2-7	TEL.03-5704-7600(代)
大阪器材部	〒564-9953 大阪府吹田市江の木町6-5	TEL.06-4861-7105(代)
札幌出張所	〒063-0849 札幌市西区八軒九条西10-4-28	TEL.011-631-2725(代)
仙台出張所	〒983-0014 仙台市宮城野区高砂1丁目30-24	TEL.022-352-4417(代)

医薬品開発をトータルにサポート

探索試験

前臨床試験

臨床試験

申請対応

- High Quality -

高品質なデータの提供

- Globalization -

グローバルな事業展開

- Prompt Response -

迅速なサービスの提供

豊富な経験と充実した支援体制

- AAALAC International (国際実験動物ケア評価認証協会)

全施設で完全認証を継続



- FDA IND/NDA電子化申請対応 (CDISC SEND)

- 年間400試験を超えるバイオ医薬品の受託実績

- 最新機種を導入

① LSRFortessa X-20
(BD Biosciences)



② NanoZoomer S360
(Hamamatsu Photonics)



③ Triple TOF 6600 plus
(AB SCIEX)



お問い合わせ先
株式会社新日本科学

Web: <https://www.snbl.co.jp/> Email: info@snbl.co.jp TEL: 03-5565-6140
Copyright © SHIN NIPPON BIOMEDICAL LABORATORIES, LTD. All rights reserved



ケー・イー・シーでは医薬品の研究・開発にお使いいただける細胞・ヒト由来試料を取扱っております

研究用試薬

▶ HepaRG®・初代肝細胞



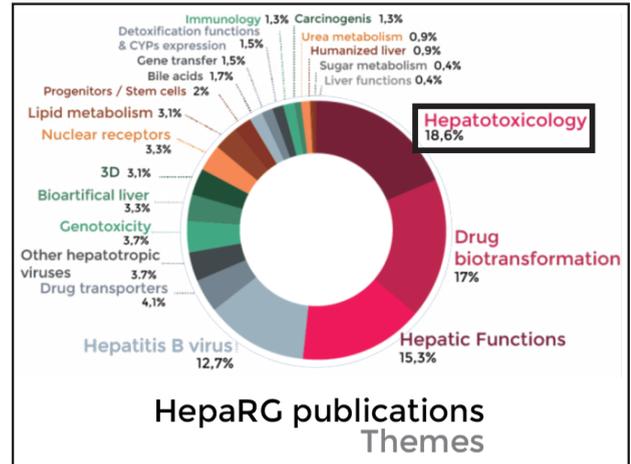
HepaRG®は、BIOPREDIC International社がライセンスを保有するヒト肝細胞セルラインです。肝細胞様形態を呈し、各種肝機能を保持・発現しており、ヒト初代肝細胞の代替ツールとして毒性試験および薬物動態などに広く利用されています。

【HepaRG®は様々な毒性評価に使用可能！】

- ①ミトコンドリア毒性の評価
- ②反応性代謝物による肝毒性評価
- ③炭水化物および脂質代謝評価
- ④胆汁うっ滞の評価

■ HepaRG®を使用した論文が多数発表されている中、毒性試験で多く使用されています！

また、弊社ではBIOPREDIC International社をはじめとして、様々なメーカーで調製された品質の良い初代肝細胞（ヒト、ラット、イヌ、サル等）もご用意しております。



▶ ECACC標準株細胞・核酸製品

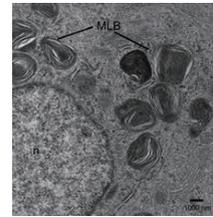


欧州最大の公的セルバンクであるECACCのセルリソース（標準株細胞・核酸製品）を、KAC独自のサービスとともに、**面倒な手続きなし***でお届けしています。

*：一部の細胞は、提供にあたり確認審査が必要になります。

【メリット！】

- ①スタンダードな株細胞は国内に常時在庫
- ②プラス5,000円で、培養状態での提供可能
- ③幾つかの起眠が難しい細胞はKACが代行
- ④KACによる迅速な技術サポート体制



▶ 肝毒性・腎毒性評価の受託試験



薬物トランスポーター研究のパイオニアであるSOLVO Biotechnology社にて、肝毒性・腎毒性評価試験などのサービスの提供も行っております。

【試験例】

- ①代謝が遅い化合物の肝毒性評価（ヒト、サル、ラット、イヌ）
（HepatoPac®：初代肝細胞と間質細胞のマイクロパターン共培養にて評価）
- ②早期腎障害バイオマーカーパネルを用いた腎毒性の可能性の評価 等



<https://www.saibou.jp/>

▶ これらの製品情報を細胞.jpでお調べ頂けます



株式会社 ケーイーシー

<https://www.kacnet.co.jp/>

お問い合わせ先

試薬事業部

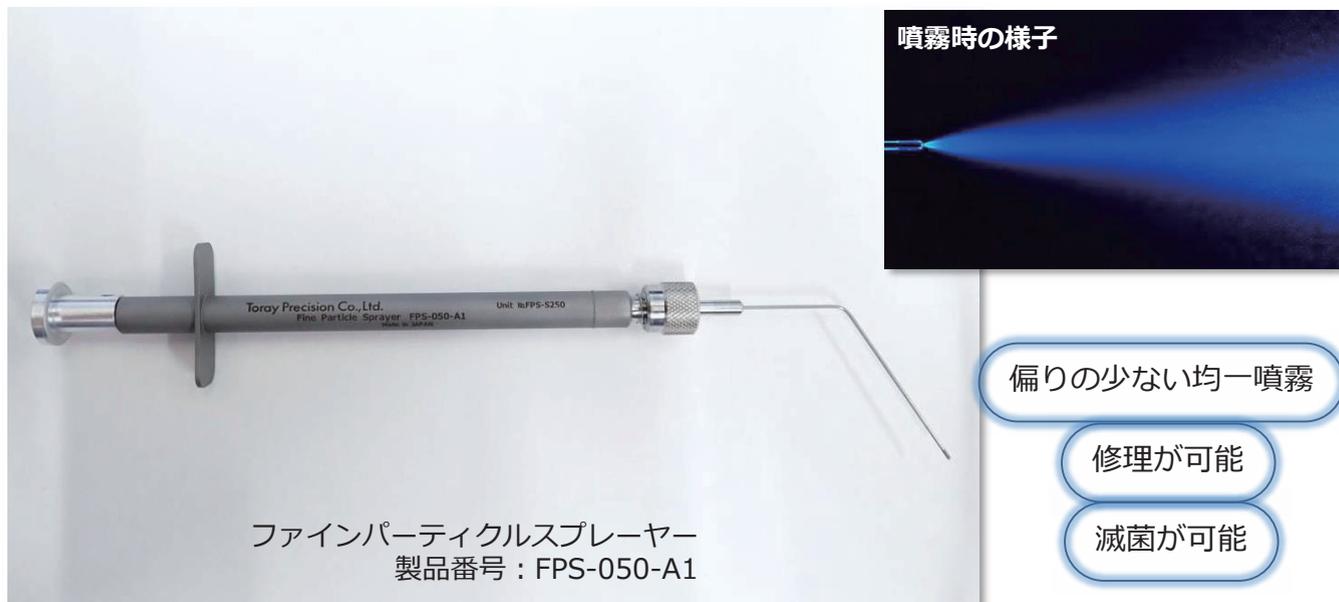
TEL:06-6435-9747 FAX:06-6435-9748

e-mail: shiyaku-info@kacnet.co.jp

ファインパーティクルスプレーヤー

Fine particle sprayer

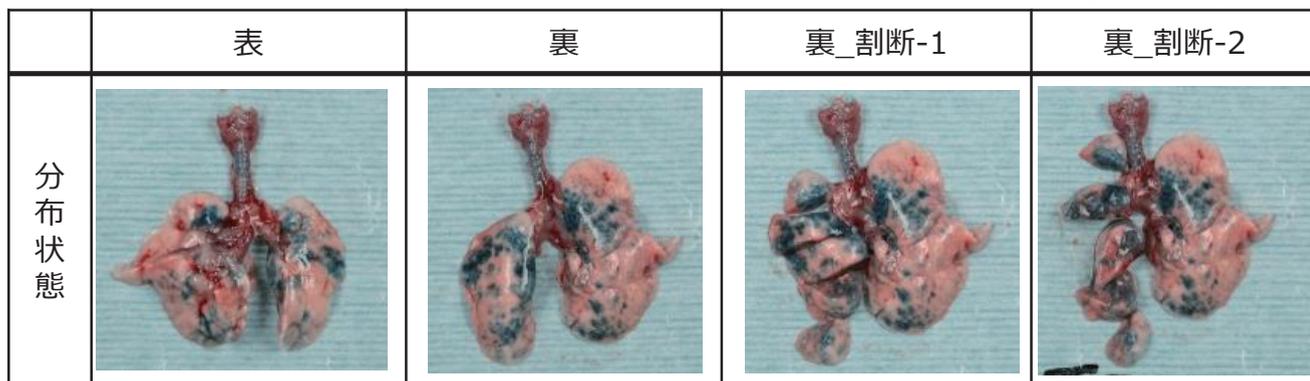
- 超微粒子(数十 μm オーダー)の噴霧を実現
- 経肺投与・薬剤の均一噴霧・微小領域への薄膜塗布などの用途に最適



ファインパーティクルスプレーヤー
製品番号：FPS-050-A1

■ マウス肺における色素分布状態

※エバンスブルー+生理食塩水 2mg/mL (50 μL 噴霧)



■ 噴霧性能

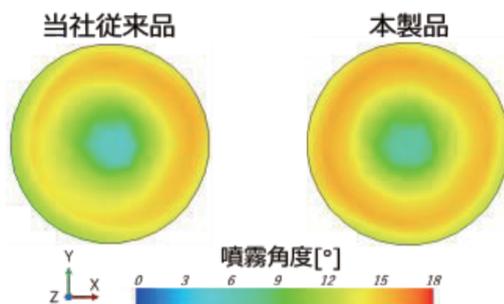
最小噴霧量 (μL)	25
最大噴霧量 (μL)	250
平均噴霧角度 ($^{\circ}$)	20~71 (相談可)

* 1 : レーザー回折式粒度分布試験

* 2 : 20 $^{\circ}\text{C}$ 大気環境下

■ 流出口の噴霧角分布

(当社シミュレーション結果)



■ お問い合わせ先

Reference

TORAY Innovation by Chemistry
東レ・プレジジョン株式会社



URL <https://www.tpc.toray>

(関西営業部) 滋賀県大津市大江1丁目1番40号
TEL: 077-545-8804 FAX: 077-545-8824
(関東営業部) 神奈川県横浜市港北区新横浜2-7-17
TEL: 045-270-3201 FAX: 045-270-7522

一般社団法人 日本毒性学会

【名誉会員】

今道 友則	堀口 俊一	福田 英臣	池田 正之
加藤 隆一	白須 泰彦	黒岩 幸雄	井村 伸正
佐藤 哲男	渡辺 民朗	高橋 道人	榎本 眞
小野寺 威	遠藤 仁	菅野 盛夫	黒川 雄二
鎌滝 哲也	赤堀 文昭	土井 邦雄	長尾 拓
福島 昭治	津田 修治	吉田 武美	堀井 郁夫
大野 泰雄	上野 光一	山添 康	

【功労会員】

高仲 正	前川 昭彦	佐藤 温重	安田 峯生
菊池 康基	大沢 基保	今井 清	降矢 強
玄番 宗一	唐木 英明	仮家 公夫	暮部 勝
野村 護	牧 栄二	三森 国敏	佐神 文郎
遠山 千春	小野寺博志	杉本 哲朗	西田 信之
中村 和市	永沼 章	姫野誠一郎	眞鍋 淳

【賛助会員】

(五十音順)

●ダイヤモンド

(株)新日本科学

●プラチナ

第一三共(株)

●ゴールド

旭化成ファーマ(株)

アステラス製薬(株)

EAファーマ(株)

エーザイ(株)

大塚製薬(株)

花王(株)

科研製薬(株)

協和キリン(株)

三栄源エフ・エフ・アイ(株)

(株)三和化学研究所

(株)資生堂

昭和電工(株)

(一財)生物科学安全研究所

千寿製薬(株)

大日本住友製薬(株)

武田薬品工業(株)

中外製薬(株)

(株)DIMS 医科学研究所

東レ(株)

日本香料工業会

ファイザー(株)

扶桑薬品工業(株)

Meiji Seika ファルマ(株)

(株)薬物安全性試験センター

Charles River

あすか製薬(株)

(株)安評センター

(株)イナリサーチ

(株)LSIM 安全科学研究所

小野薬品工業(株)

一般財団法人化学物質評価研究機構

杏林製薬(株)

興和(株)

サントリ- MONOZUKURI エキスパート(株)

塩野義製薬(株)

シミックファーマサイエンス(株)

住友化学(株)

ゼリア新薬工業(株)

大正製薬(株)

大鵬薬品工業(株)

田辺三菱製薬(株)

帝人ファーマ(株)

トーアエイヨー(株)

(一社)日本化学工業協会

日本新薬(株)

富士フイルム(株)

(株)ボゾリサーチセンター

持田製薬(株)

ライオン(株)

【役員】(2020～2021年度)

理事長	菅野 純		
理事	青木 豊彦	上原 孝	小野 敦
	鍛冶 利幸	北嶋 聡	熊谷 嘉人
	古武弥一郎	児玉 晃孝	小林 章男
	佐藤 雅彦	鈴木 睦	高橋 祐次
	角崎 英志	苗代 一郎	平林 容子
	藤原 泰之	宮脇 出	森 和彦
	吉成 浩一		
監事	天野 幸紀		
	務台 衛		

【学術年会長】

第49回 (2022年) 石塚真由美

第50回 (2023年) 北嶋 聡

【委員会】(2020～2021年度)

●印：常置委員会 ◆印：小委員会

●総務委員会	委員長	高橋 祐次
◆連携小委員会	委員長	北嶋 聡
◆評議員選考小委員会	委員長	佐藤 雅彦
◆名誉会員および功労会員選考委員会	委員長	高橋 祐次
◆指針値検討小委員会	委員長	広瀬 明彦
◆企画戦略小委員会	委員長	宮脇 出

●財務委員会	委員長	青木 豊彦
	副委員長	森 和彦

●編集委員会	委員長	鍛冶 利幸
	副委員長	古武弥一郎
◆JTS 編集委員会	委員長	鍛冶 利幸
	副委員長	古武弥一郎
◆FTS 編集委員会	委員長	永沼 章
◆Executive Editor 小委員会	委員長	永沼 章
◆田邊賞選考小委員会	委員長	諫田 泰成

●教育委員会	委員長	鈴木 睦
◆生涯教育小委員会	委員長	鈴木 睦弘
◆基礎講習会小委員会	委員長	橋本 清弘
◆認定試験小委員会	委員長	福島 民雄
	アドバイザー	古川 賢

●学術広報委員会	委員長	児玉 晃孝
◆学会賞等選考小委員会	委員長	堀井 郁夫
◆佐藤哲男賞選考小委員会	委員長	熊谷 嘉人
◆特別賞等選考小委員会	委員長	熊谷 嘉人
◆技術賞選考小委員会	委員長	宮脇 出
◆日化協 LRI 賞選考小委員会	委員長	北嶋 聡
◆学術小委員会	委員長	石塚真由美
◆広報小委員会・HP 担当	委員長	児玉 晃孝

★その他関連の委員会

○ IUTOX 担当	IUTOX Executive Committee, Director	熊谷 嘉人
	IUTOX Nominating Committee, Chair	菅野 純
○ ASIATOX 担当	ASIATOX Council	小椋 康光
○ 日本学術会議担当	委員	石塚真由美

2021年12月1日 印刷

2021年12月1日 発行

発行人 菅野 純

編集人 鍛冶利幸

発行所 一般社団法人日本毒性学会

学会事務局 〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋 1-1-1

パレスサイドビル

(株)毎日学術フォーラム

一般社団法人日本毒性学会事務局

TEL (03) 6267-4550 FAX (03) 6267-4555

E-mail : jsotq@jsot.jp

振替 00150-9-426831

<http://www.jsot.jp>

印刷所 株式会社 センキョウ

〒983-0035 仙台市宮城野区日の出町二丁目4-2

TEL (022) 236-7161